

これから社会に笑顔を

中沢中学校

佐藤 咲希

私は生れつき聴覚に障害を持つている人です。私は生まれてから、常に「笑顔」でいることを目標としています。しかし、これまでの経験から、笑顔を保つのは非常に難しいことがあります。特に、私は難聴の方で、コミュニケーションが大変なことがあります。そこで、私は自分自身で、どのように笑顔を保つことができるかを考えています。それは、まず自分の感情を理解し、それを他人に伝えることです。そのためには、手話や筆談などのコミュニケーション手段を学ぶ必要があります。また、自分自身の強みや得意なことを発見し、それを自信を持って表現することも大切です。さらに、笑顔を保つためには、周囲の人々との交流も重要です。私は、これまで多くの人に会話を通じて、たくさんの笑顔を見ました。その中で、最も印象的だったのが、中澤中学校の佐藤咲希さんです。彼女は、常に元気で、笑顔で、とても優しい人でした。彼女の笑顔は、私たち全員の心を温めました。彼女の言葉には、「これから社会に笑顔を」とありました。これは、まさに私たちが目指す目標です。今後、私は、自分自身の笑顔を保つ方法を確立し、それを実践していきます。また、他の難聴の方々や、コミュニケーションに苦労する方々へ、笑顔を届けるためのアドバイスを提供していく予定です。最後に、この手紙を読んだ皆さんへ、一つだけお願いがあります。それは、「笑顔」を常に保つことです。笑顔は、人々の心を温め、世界を明るくする力があるのです。だからこそ、笑顔を保つことが、私たちの社会に大きな影響を与えるのです。だからこそ、これから社会に笑顔を。それが、私たちの目標です。

そこで世の中には何が足りないかを考えた。
障害を持つている人の理解が薄いことだ。
でも点字ブロッキングやスローバリアフリーライフなど社会で取り組んでいることは沢山ある。
私はこれらの人達とどのようにして障害を持った人へ理解を広げていこう。
多くの人ができてしまふのを防ぐためにも、理解は本当には大切なことです。
どうして困ってしまふのか、どうのようすべての障害を理解しておけば、もと細かい場所に持つた障害を理解すればもと細かい場所に持つた障害を理解することができる。
もと配慮「が」でさることから、一つ目は授業で取り入れておる。
どんな人に「も」知「て」もううこと「が」一番だが、「が」
これから「の」社会を作「つ」て「いく」のは、「私た」ち
どもだ。今、私たち「が」理解を深めれば大人「に」子
て「いく」と「が」でさることを生みし「て」社会に伝え
てはなかと考「え」た。
社会や総合、道徳などでも興味を持つきつた。

けを作り、深く考えていくことが大切だと思
う。そして福祉作文のようになります。
これまで伝えていくことから必要にな
る。二つ目は交流をする。今回私が参加したも
のはダンスト手話を取り入れたものだ。た
の参加し交流すれば何か気づくことがあります。
好きなことと関連してもい。一度だけも
しない。小さなことでも障害を持つていろ
人とのことは大事なことで嬉しいことがあります。
かなかやらず、すごく嬉しいところがも
人一人の笑顔が大切だとから。私と交流した小
さな男の子は自己紹介しかけてきたのに
もかかわらず、なぜ快適な世の中を目指すのか。
一
できなこと思っていたことなどがでてくる。これほ
どうれしいことばかり。これほ
うしていくことが大切だ。沢山の笑顔や幸せ
らしていただくことができることができた。
理解することができます。少し困ることを減
たから交流は障害を身近に感じることがで
きうございことはなりのではな
う。そこが大切だ。沢山の笑顔や幸
を作るために。